

# 放射線ゼロの危険

LNTモデルのもたらす世界危機の克服

## < 目 次 >

### 第1章 低線量率放射線だった福島県民

科学的根拠のない福島20km圏の放置 ———— 高田 純 — 9

- 1-1 福島県民が低線量率放射線だった事実 ———— 9  
震災元年 緊急時の地元県民の線量・9  
100mSv 以上の高線量被曝と健康被害・13  
線量レベルDだった福島県民・18

- 1-2 福島軽水炉事故災害が低線量だった理由 ———— 20  
世界の核放射線災害における公衆の線量比較・20  
福島放射線災害が低線量だった3つの理由・22  
小児甲状腺がん検査で福島県内は県外と差なし・24

- 1-3 福島県民の線量低下 ———— 26  
福島第一原発放射線の減衰・26  
放射性ヨウ素の消滅とセシウムの内部被曝線量の減衰・26  
外部被曝線量の大幅な減衰・27

### 第2章 福島の低線量放射線とどう向き合うか

日本が主導すべきLNTモデルの撤廃 — モハン・ドス — 31

- 2-1 LNTモデルの問題点 ———— 31  
低線量放射線への根拠のない恐れ・31  
LNTモデルのもたらした健康被害、経済被害・33  
「新しい考え方」(代替見解)の検討と展開・34

- 2-2 がんの主な原因は免疫システムの不全 ———— 35  
がんのパラダイムそのものの間違い・35  
発がん性突然変異の早期発見は有効か・36

- 2-3 低線量放射線が免疫力を高める ———— 37

低線量放射線のがん抑止効果・37

LNT モデルでは説明できない原爆生存者のがんデータ・40

子どもの放射線への抵抗力と誤解・40

低線量放射線と老化への効果・42

■ 2-4 私たちのすべきこと ————— 44

ワーキンググループの発足・44

専門家の訓練・45

正しい知識の啓蒙活動・46

日本の原子力発電の課題と LNT モデルの克服・47

他のエネルギー源は安全なのか?・47

LNT モデル廃止の提案と大改革の正当性・49

### 第3章 放射線の身体影響

DNA は放射線が大好き ————— 服部 禎男 — 55

■ 3-1 放射線ホルミシス ————— 55

ラッキー曲線の登場・55

免疫細胞の活性化・56

がん抑制遺伝子 p53 の活性化・57

抗酸化酵素 SOD の増加と膜透過性の飛躍・58

抗酸化酵素 (SOD、GPx) の飛躍的増加・61

各種ホルモンの増加・62

三朝の洞窟でのラドン実験・63

DNA 損傷の修復・63

台北での高放射線マンションの報告・65

遺伝子の活性化・67

BELLE (Biological Effects of Low Level Exposures) の活動・68

■ 3-2 科学的放射線安全について ————— 69

マラー氏の実験結果・70

MIT ロブリー・エバンス博士の研究—ラジウムペインター骨がん発生のしきい値—・70

マイロン・ポリコフ、ルードヴィヒ・ファイネンデーゲン博士の大論文・72

ロシアの再処理工場事故による大規模被曝の結果	73
WHO/IAEA 専門家会議（於セビリヤ 1997 年）	73
ラドン吸入実験結果（ラドンと肺がん）	74
モーリス・チュビアーナ博士のダブリン報告	75
ベータ線によるしきい値発見	76
英国 X 線技師の追跡調査	76

### ■ 3-3 放射線適応応答 ————— 77

DNA と線量率（Dr. Knudson, Radiology）	77
Radiology 誌総括論文のまとめ	81
放射線の全面的医療応用時代が来る—Adaptive Response（放射線適 応応用）の究極応用—	84
モハン・ドス博士の提言	84
〈付録〉DNA は放射線が大好き—K <sup>40</sup> （カリウム 40）こそ生命の源だ—	87

## 第 4 章 放射線なしに生命は存在しない

### 福島 20km 圏内の低線量率にリスクなし ——— 高田 純 — 95

#### ■ 4-1 太陽の放射エネルギーと生命 ————— 95

物質の放射するエネルギー	95
太陽系と生命	97
毎日 18 ~ 180Sv の太陽紫外線で光合成	97
紫外線曝露によるビタミン D 体内合成	99

#### ■ 4-2 太陽紫外線の曝露が大腸がんリスクを低下させる ——— 100

世界で見る大腸がんを抑制する紫外線曝露	101
北海道内の疫学調査	102
太陽光曝露時間が長いと大腸がんリスクは小さい傾向	104

#### ■ 4-3 放射線の健康増進と防護の境界となる線量率 ——— 106

1 日あたりの線量率 日常生活から広島まで	106
高線量レベル B でさえ、顕著な寿命短縮はない	107
低線量率 10mSv/day 以下の場合、寿命短縮なし	110
健康維持の線量率は 0.001 ~ 0.3mSv/day	110
福島県民の線量率は健康増進の範囲	112